

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（11 社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、オービックビジネスコンサルタント、大塚商会、ネットワンシステムズ、BIPROGY、NTT データグループ、SCSK

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 22 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち主に ESG 関連の項目の内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、70.2 点（昨年度 69.8 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.1 点（昨年度 12.8 点）となった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%（昨年度 69%）、説明会等が 72%（昨年度 75%）、フェア・ディスクロージャーが 77%（昨年度 79%）、ESG 関連が 66%（昨年度 62%）、自主的情報開示が 75%（昨年度 74%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 10 項目のうち平均得点率が 80%以上のものではなく、6 項目が 70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次のフェア・ディスクロージャーの項目であった。

- ・ 「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか【終了後同日中にできる：15 点 後日できる：7 点 できない：0 点】（平均得点率 77%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0%2 社・40%台 1 社・100%8 社）

- ④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、昨年度に続き 50% 台となり、最も低い水準となった。下位評価の企業の経営陣には、IR 活動への積極的な取組みなどの改善努力を強く求めたい。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 55% [昨年度同率]) (得点率: 10% 台 1 社・30% 台 2 社・40% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 2 社・80% 台 2 社)

- ⑤ ESG 関連の 3 項目は、いずれも 60% 台にとどまった。なお、下位評価の企業の一部に改善が見られるが、さらなる改善努力を求めたい。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか」(平均得点率 64% [昨年度 62%]) (得点率: 20% 台 1 社・30% 台 1 社・40% 台 1 社・50% 台 2 社・70% 台 3 社・80% 台 1 社・90% 台 2 社)
- (b) 「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 65% [昨年度 63%]) (得点率: 30% 台 2 社・50% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 3 社・90% 台 2 社)
- (c) 「非財務情報（人的資本などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか」(平均得点率 68% [昨年度 61%]) (得点率: 40% 台 1 社・50% 台 3 社・60% 台 2 社・70% 台 2 社・80% 台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [8 回連続 16 回目]、

総合評価点 89.0 点 [昨年度比 +1.9 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉88%）、ESG 関連（90%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（100%）、説明会等（82%）、自主的情報開示（82%）が同得点第 2 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが IR の重要性をよく理解し、IR 担当者との連携も優れているとの声のほか、海外事業に関する説明が詳細で、国内外の事業環境を確認する上で有益であるとの声が寄せられた。IR 部門については、非常に高いクオリティを有しているとの声や、経営トップも参加するスモールミーティングを定期的 to 開催し、その内容をウェブサイトで公開していることを評価する声があった。また、充実していたイベントとして、北米事業や産業 IT 事業などの事業説明会を挙げる声が多かった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第 2 位）および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（同得点第 2 位）は、トップと僅差であった。なお、地域別利益実績の定量的な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する情報の開示」が最も高い評価となり、「資本政策、株主還元策の開示」も同得点第 1 位となった。「目標とする経営指標等」は第 2 位となり、トップと僅差であった。これらに関連して、開示内容は他社のお手本となるとの声が寄せられたほか、サステナビリティ説明会の開催や ESG データブックの内容を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」（同得点第 2 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、トップと僅差であった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 T I S （総合評価点 86.3 点〔昨年度比+3.3 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（100%）、経営陣の IR 姿勢等（83%）、ESG 関連（86%）が第2位、自主的情報開示が同得点第2位（82%）となった。5分野全てにおいて得点率が改善した（連続満点評価を含む。）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第2位（昨年度第4位）となった。これに関連して、ペイメント事業説明会の開催を評価する声が多かった。「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」（第3位）および「経営陣の IR 姿勢」（第4位）は、共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが自ら説明することが多いとの声や、決算内容や中期経営計画の進捗状況などの説明が一貫しており、情報開示の継続性が高いとの声が寄せられた。なお、新たな成長戦略の説明を期待する声があった。IR 部門については、非常に高いクオリティを有しているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（同得点第2位）も、トップと僅差であった。これらの結果、この分野において第1位（昨年度同得点第1位）となった。なお、オフリングサービスの事業環境や内訳について十分な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」が最も高い評価となった。「資本政策、株主還元策の開示」も同得点第1位となり、90%以上の得点率であった。「ESG に関する情報の開示」は第3位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第2位となり、トップと僅差であった。

第3位 S C S K （総合評価点 81.6 点〔昨年度比+1.8 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（100%）、説明会等（82%）、自主的情報開示（82%）が同得点第2位、ESG 関連が第3位（82%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（72%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が第2位となり、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第2位となった。これらに関連して、経営トップが説明会に出席し、自らの言葉で経営戦略等を説明しているとの声が寄せられた。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」（第6位）は、昨年度に比べ得点率が大きく下がった。
- ③ 説明会等においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が最も高い評価となった。「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第3位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。なお、車載ソフトウェアの事業環境に関する開示や、注力領域の売上高などの重要 KPI の四半期毎の開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了

後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESG に関する情報の開示」が第 2 位（昨年度第 4 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、サステナビリティ説明会の開催を評価する声があった。また、「目標とする経営指標等」（第 3 位）および「資本政策、株主還元策の開示」（第 3 位）も、それぞれ昨年度に比べ得点率が改善した。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第 2 位となり、トップと僅差であった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2 (配点 20点)		3. フェア・ディスクローチャー 評価項目1 (配点 15点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目3 (配点 30点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点 5点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	89.0	26.5	1	16.4	2	15.0	1	27.0	1	4.1	2	1
2	3626 TIS	86.3	24.8	2	16.6	1	15.0	1	25.8	2	4.1	2	2
3	9719 SCSK	81.6	21.5	5	16.4	2	15.0	1	24.6	3	4.1	2	3
4	7518 ネットワンシステムズ	79.4	23.5	3	15.6	4	15.0	1	22.1	4	3.2	10	6
5	9613 NTTデータグループ	73.7	20.8	6	12.4	11	15.0	1	21.7	5	3.8	6	5
6	8056 BIPROGY	70.7	18.4	8	13.9	6	15.0	1	19.5	6	3.9	5	7
7	4704 トレンドマイクロ	70.2	22.2	4	13.0	9	15.0	1	16.7	8	3.3	9	9
8	2327 日鉄ソリューションズ	64.7	16.7	10	13.6	7	15.0	1	15.9	9	3.5	8	8
9	4733 オービックビジネスコンサルティング	59.4	19.0	7	15.2	5	7.0	9	14.0	10	4.2	1	10
10	4768 大塚商会	52.9	17.7	9	13.3	8	0.0	10	18.2	7	3.7	7	11
11	4684 オービック	43.7	14.7	11	12.9	10	0.0	10	12.9	11	3.2	10	12
	評価対象企業評価平均点	70.15	20.53		14.48		11.55		19.85		3.74		

2024年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10	
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点	委員のみ
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10	
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10	
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点	委員のみ
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか。	7	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7	
(3)ESGに関する情報の開示		
・非財務情報（人的資本などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	16	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点	委員のみ
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（22 名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岩渕 啓介	岡三証券	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
上野 真	大和証券	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	平岡 直樹	野村証券
河内 亮	丸三証券	堀 雄介	みずほ証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	村上 秀樹	丸三証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	山科 拓	マッコーリーキャピタル証券会社
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。